

# ECO News

Educational Computing Newsletter

No. **83**  
2003. 1

発行 = 21世紀教育研究所  
所長 中山和彦

〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-3-6  
TEL 029-850-3321 / FAX 029-850-3330  
E-mail econews@eri21.or.jp  
URL http://www.eri21.or.jp

「この人」第一回岡田弘康先生「新たな試みは常に岡田先生の実践とともに」 東原義訓	1
つくば市立竹園東小学校5年生のページ	3
表計算ソフト「Excel」とグループウェア「スタディノート」を使った数学における協同学習 つくば市立谷田部東中学校 杉田慶也	4
つくば市立並木小学校研究発表会に行ってきました	6
メディアコーディネータ研修会のお知らせ／インタラクティブ・スタディお試し教材のダウンロードははじめました	8
スタディノート実践事例ビデオ ⑥富山県滑川市立西部小学校	8



## 「この人」 第一回 岡田弘康先生 (前つくば市立竹園東小学校 校長)

今日の教育におけるコンピュータ利用の発展は、卓越した先見の明、献身的で地味なご努力、力強いリーダーシップ、地域を引っ張るグループの活躍など、全国の数多くの方々のご努力に支えられています。連載「この人」は、長年にわたりご活躍されている先生から、新人の先生まで幅広くECONewsの仲間を感謝の気持ちを込めてご紹介する企画です。

第一回は、この企画の提案者である東原先生が、前つくば市立竹園東小学校校長、そして、いばらきコンピュータネットワーク (IT'S Net) 会長の岡田弘康先生を語って下さいました。

新たな試みは常に岡田先生の実践とともに

信州大学教育学部 東原義訓

### ◆岡田先生との出会い

岡田弘康先生との初の出会いは昭和53 (1978) 年で、私は筑波大学大学院教育研究科の1年生でした。ちょうど、筑波大学が教育におけるコンピュータ利用に関する研究に精力的に取り組み始めたころのことです。



理科教育の吉本市先生が、児童・生徒の科学概念の形成過程を分析するための手法としてミニコンピュータを利用したUP表、MP表という評価手法を開発され、その応用研究の段階にありました。いわゆるCMIの研究です。岡田

先生は、この研究チームに所属され、小学生の理科の分野を担当されていました。一方、筑波大学の計算センター長だった中山和彦先生たちのグループは、CAIの研究を進め、当時大学に最も近かった桜村立竹園東小学校において、日本初の本格的なCAIの研究を開始したところでした。その竹園東小学校の研究チームのリーダーが岡田先生だったのです。

当時、教育におけるコンピュータの活用といえば、誰もがCMIとCAIを思い浮かべました。この両方の活用方法の実践研究に岡田先生は小学校教諭として現場の立場から参加されました。大学院生としてこれらの研究に参加していた私は、岡田先生を通じて

「教育研究というもの、大学と実践の場である学校が協力して進めるものである」ことが当たり前という感覚を身につけることができました。そして、大学院生のときにこの重要性を実感できたことが、私のその後に大きな影響を及ぼしているに違いありません。

### ◆岡田先生とスタディシリーズ

竹園東小学校で生まれたCAIは、その後、クラスルームCAIとなり、さらにスタディシリーズとして今日に至っています。この過程で大きな2つの節目がありました。第一の節目は、昭和59年の夏、シャープシステムプロダクト株式会社（SSP）が大学と共同でシステム開発を開始し、市販のパソコンでCAI授業ができるようになった時でした。この「クラスルームCAI」は、シャープのコンピュータでしか稼働できませんでした。第二の節目は、NEC製でも富士通製でも、どの会社のコンピュータでも稼働するようにして、さらに、それらの異機種をネットワークで接続してCAI授業を実現した時です。この異機種をネットワークで接続したCAI授業を、実際に学校の授業の中で実証して下さったのが岡田校長先生の牛久市立神谷小学校でした。岡田先生は1ヶ月ほどの無料レンタ

ルを各社に依頼し、12を数える機種のコンピュータをかき集めて40台を揃え、一般公開の授業まで開催されました。Windows出現以前に、さまざまなコンピュータをネットで結んで制御するなど、普通ではとても考えられない画期的なことでした。授業に立ち会っていたSSPの技術者でさえ、内心では不安だったはずですが、しかし、岡田先生は、多分世界でまだ誰もやったことのない大冒険をごく自然体でやってのけてくださいました。他の校長先生ではとても実現できないことだったと思います。おかげさまで、スタディシリーズは無事スタートを切ることができました。

その後、スタディシリーズにはCAIとしてのスタディタイムのほか、学校用グループウェアとしてのスタディノートが加わりました。課題解決の道具、共同学習の道具としてのスタディノートは、「総合的な学習の時間」のためのソフトといえるものですが、設計した余田義彦先生の意図するような利用法に出会うまでに約10年を要しました。機能の拡張もさることながら、実際に授業で上手に活用して下さる先生方との出会いがスタディノートの有用性を保証することになりました。

その代表的な例に、八王子市立柏木小学校の実践とつくば市立桜南小学校と並木小学校間の共同学習の実践が挙げられます。桜南小学校と並木小学校はともに近くに花室川が流れ、花室川で結ばれているとも言えます。桜南小学校の岡田校長先生が並木小学校に異動され、両校は岡田先生に育てられた教員集団で構成されることになりました。そして、今では共同学習の成功例としてよく知られる「花室川プロジェクト」がスタートしました。その後、岡田先生が竹園東小学校の校長に異動される中で花室川プロジェクトの仲間も大きく広がっていききました。

### ◆異動(?)したコンピュータ有名校

コンピュータの活用で全国的に有名な小学校が茨城県に何校もあります。いつごろなぜ有名になったのかの年表を書いて、それに岡田先生の所

岡田弘康先生の経歴とコンピュータ実践

1940年	4月16日生	
1959年	茨城大学教育学部入学	
1963年	同大学卒業	
	水海道市立水海道中学校教諭	
1965年	土浦市真鍋小学校教諭	
1973年	東京教育大学教育学部に内地留学	吉本市先生について探求過程を重視した理科の指導法、及び評価について研修
1975年	桜村立竹園東小学校教諭	筑波大学中山研究室のCAI実践に協力、CAI教材の開発
1981年	茨城県教育研修センター特別長期研修生	
1984年	桜村教育委員会指導室指導主事	コンピュータ導入の推進及び教員研修とそれに基づく教材開発の指導
1989年	つくば市立並木小学校教頭	
1991年	牛久市立神谷小学校校長	異機種コンピュータをネットワークで結んだCAI授業の実践
1994年	つくば市立桜南小学校校長	インターネットへの専用回線による接続と校内LAN構築、インターネットを活用した授業実践およびスタディノートの授業実践スタート
1996年	つくば市立並木小学校校長	横断的、総合的な学習の展開とホームページによる成果発表、メディアルーム（コンピュータ、インターネット、図書、ビデオ）の開放
1998年	つくば市立竹園東小学校校長	スタディノートを活用した学校間共同学習（花室川プロジェクト）
2000年	3月 退職	

属を追加してみると、その理由は一目瞭然、岡田先生の異動とともにコンピュータ先進校は異動していたのです。異動先で常に新しい試みをされるので、その学校が有名になるという図式です。

この事実は全国の校長先生への刺激的なメッセージです。「学校におけるコンピュータ利用が成功するか否かの全責任は校長にある」「学校を変えるのは校長だ」。

岡田先生の近くには、特に優れた先生が必ず集まってきました。核となる人材の確保と全教職員の意識の高揚。教職員の努力が月並みの成果に終わらず、全国的にも優れたところまで到達していることを自覚できる発表会や表彰など、リーダーのあり方を岡田先生は示してくださったのです。

#### 4. 予算は獲得するもの

岡田先生は、赴任先の学校で研究チームを作り、文部省の科学研究費補助金奨励研究（B）をはじめ松下視聴覚教育研究財団などから、研究助成金を毎年のように獲得されていました。また、村や市から理科、算数、帰国子女教育と様々な分野での実践研究のための予算獲得にも努力されました。小・中学校の先生から「予算がないのでソフトが買えない」「〇〇市は財政が厳しい」などの諦め話をよく聞かれますが、これらの先生は教育委員会や協力機関に予算獲得のための働きかけを行ったりや申請書類を書いたことがあるのでしょうか。校長職でなくとも獲得できる予算が案外あります。岡田先生と同じ学校に

勤めたことのある小学校の多くの先生が、その後もさまざまな予算を獲得し、補助金を得ていろいろな実践活動に活躍されていることに注目していただきたいと思います。

#### 5. 人のネットワーク

CAIの実践がスタートした頃の竹園東小学校では、教材作成では何人も小学校の先生方が夜を徹して仕事をして下さいました。院生だった私も小学校のCAI室に住みついていて、朝、登校してきた児童に起こされるということも経験しました。そんな時の唯一の楽しみは、岡田先生が持ってきて下さる朝食弁当でした。「奥様によろしくお礼を」と申し上げていましたが、後にあの弁当は岡田先生の手作りであったことを知りました。

当時苦勞した仲間に、その後岡田先生が指導された若い先生方も加わって、年に1、2回懇親会が開催されていて、私も可能な限り参加させていただいています。

岡田先生のまわりの先生方はいつしかやる気になってしまっています。飄々として、一見リーダーシップという言葉とは縁遠いように見える岡田先生がいてくださることで、メンバーは、何時の間にかフロンティア精神を発揮し、未知のことに挑戦しています。なぜそうなるのか、そうってしまったのかは誰にもわかりません。岡田先生は、不思議な存在なのです。（本稿は、2000年10月21日岡田弘康先生退職記念研究会誌の原稿をもとに執筆したものです。）



スタディノートメーリングリストから

#### 内容充実、テンコ盛

#### つくば市立竹園東小学校5年生のページ

<http://www.takezono-e-e.ibk-tt-net.ed.jp/98/index.htm>

このホームページの目玉は、何と言っても「学習のあゆみ」ではないでしょうか。5年生の児童が、2年生のときから現在までの、国語、生活科、図工で作成したスタディノートのデータベースがたくさん掲載されています。それらのデータベースからは、子どもがそのとき何を考え、活動したかがよくわかります。子ども自身はもちろん家庭や職場から自由に見ることができる保護者を本当にうらやましく思います。

また、教科を問わず、さまざまな活動の中にスタディノートが上手に活用されているので、実践の参考にもなります。5年生のデータベースには、つくば市内の小・中学校で行っている共同学習掲示板「数

楽の広場」でブレイク中の「フラッシュたし算」も載っています。子どもの気持ちになって、先生方も挑戦してみたいのではないでしょうか。

#### 「フラッシュたし算」

つくば市立谷田部東中学校の生徒が、スタディノートの「\*秒後にジャンプ」という機能を使って作った問題で、次から次へと画面に数字が出てきてそれを足し算していくものです。\*秒後にジャンプの\*の数字を小さくすればするほど難易度が高くなります。つくば市の共同学習掲示板「数楽の広場」では、これにハマる小学生が続出とか。

# 表計算ソフト「Excel」と グループウェア「スタディノート」を使った 数学における協同学習

つくば市谷田部東中学校 杉田慶也



## ■はじめに

筆者は、中学校の数学教育において、テクノロジーを利用した数学教育や、学校教育用グループウェア「スタディノート」を用いた授業実践を試みてきている。本稿では、その事例報告を通して、数学教育における表計算ソフトやイントラネット・インターネット利用の可能性を探ってみたい。

## ■実践事例

### (1) ねらい

#### ①「総合的な学習」の観点から

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

#### ②「選択総合数学」の観点から

- ・具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べる。
- ・関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。

#### ③「情報教育」の観点から

- ・課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力（情報活用の実践力）
- ・情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解（情報の科学的な理解）
- ・社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度（情報社会に参画する態度）

### (2) 生徒の実態

- ・「選択総合学習※」で数学を選択している1年生生徒22名。
- ・Excelの使用は初めての生徒がほとんど

である。スタディノートは、小学校でも使っており、使いこなすことができる。

- ・必要な数学的知識は、折れ線グラフ、棒グラフ、相関図程度である。相関図は未習である。

### (3) 計画

前期は、教師が用意したデータ「ソメイヨシノの開花日予想」を用いて、データ分析の考え方や、表・グラフの作成方法・近似曲線の意味と追加の仕方等、Excelの扱い方を学習する。さらに、スタディノートのデータベースを使って、読み取った情報を共有化し深めていくために、協同学習（Collaborative Learning）を行う。

後期は、各自が設定したテーマで自由研究をし、前期同様の活動を行う。また、全員のレポートは、イントラネットの機能であるスタディノートのデータベースを利用した協同学習だけで終わるのではなく、つくば市内の小中学校が中心となっている「インターネット掲示板『数楽の広場』」や学校のホームページでも公開する。

### (4) 実践状況

#### ①Excelによる表やグラフ

生徒は、教師が用意した課題「ソメイヨシノの開花日予想『表（省略）は、仙台の3月の平均気温を $x^{\circ}\text{C}$ 、ソメイヨシノの開花日を4月 $y$ 日として記録したものである。この表からグラフ（相関図）をつ

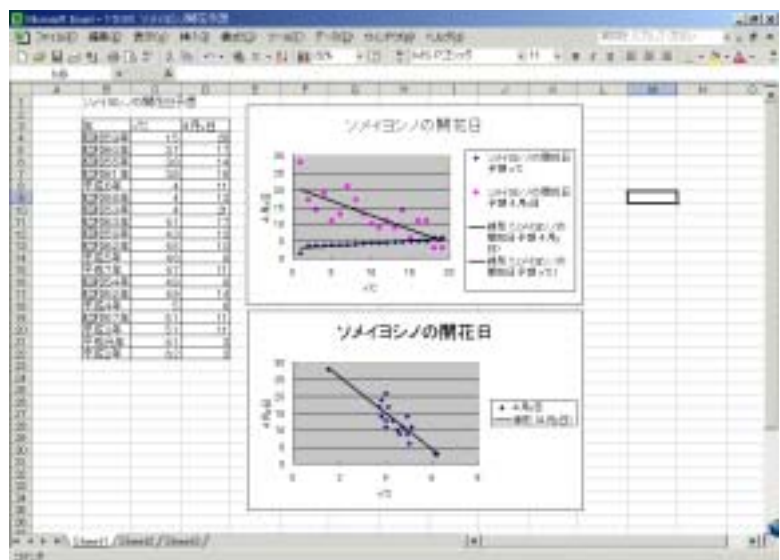


図1 Excelで作成した表とグラフ

くりましょう。また、そのグラフからどのようなことが言えるか考えましょう。』と、Excelで表やグラフを作成するためのマニュアルをもとに、表やグラフを作成した。(図1)

この生徒は、教師が用意したデータをExcelに入力後、平均気温(x℃)で昇順に並べ替えを行った。そして、範囲(B4:D22)をドラッグし、グラフウィザードで散布図を選択しグラフを作成した。

近似曲線の追加では、線形近似を選択させた。これは、事象における数量の関係を一次関数とみて問題を解決するという立場に立っていることによる。いろいろな現象の多くは、線形や2次までの多項式近似で十分に近似できる。まずは、「一次関数とみていく」ことが大切であると考えたからである。

次に、範囲(C4:D22)でもグラフを作成した。そして、他の生徒とコミュニケーションしながら二つのグラフを比べた。その結果、図1の下のグラフ(相関図)の方が、気温と開花日の関係がわかりやすいということになった。

このように、表計算ソフトExcelを使うことは、複雑な計算の処理をテクノロジーに委ねることである。その結果、生徒は、数学的問題解決活動の本性に取組みることができる。

② スタディノートを使っての協同学習

生徒は、Excelで作成した表やグラフをもとに、スタディノートのノート機能を使って、表紙・表・グラフ・考察(図2)という4ページのレポートに仕上げた。そして、データベース「選択総合 数学(データ分析)」に「親情報」として登録した(図3)。

全員のノート(レポート)をデータベースに登録した後、お互いのレポートを読みあった。そして、生徒たちは、レポートを読んだ感想・意見・質問などを「子情報」としてデータベースに追加していった(図3)。

そこで行われた協同学習の様子(例)を次に示す。

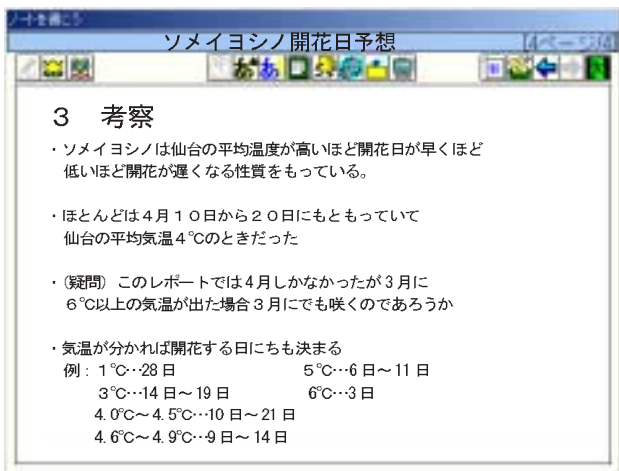


図2 ノート(レポート): 生徒Yの考察

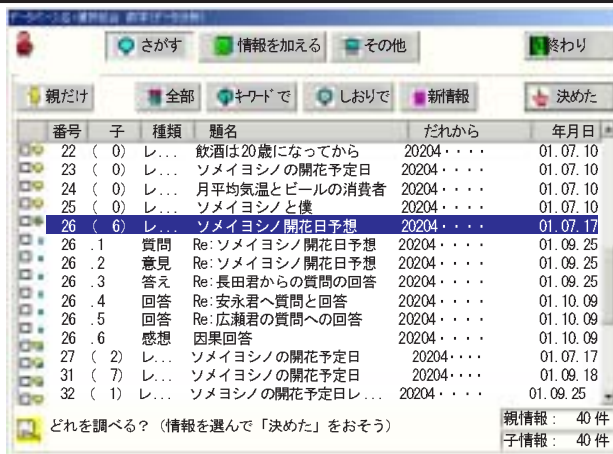


図3 データベース「選択総合 数学(データ分析)」

番号26 生徒Yのレポート(図2)

番号26.1 生徒Nから生徒Yへの質問

開花日は、昭和に比べて平成のほうが早いけど、なんでこのようになるのかわかる? 質問です。回答を、待ってその後に僕なりの答えを書きます。

番号26.3 生徒Yから生徒Nへの回答

なぜ昭和より、平成のほうが早く咲くのか? ですよ! 僕なりの考えだと、だんだんに地球の温暖化が進んでいったせいだと僕は思います。温暖化の進行により、地球の温度が年々上がり、ソメイヨシノの咲く時間が早くなるのだと思います。N君はどうでしょうか?

番号26.4 生徒Hから生徒Yへの回答と質問

回答: ビニールハウスなどで育てられると思います。ただし地球温暖化で影響するのでどうなるかわからない。質問: もしも気温の影響で咲く時期が早くなるか?

番号26.5 生徒Yから生徒Hへの回答

「花が咲く時間が早くなるのでは?」という質問でしたよね!

多分僕の考えでは、たとえ気温の暖かいビニールハウスの中だとしても、もともとの桜の性質があるので、すぐにかれてしまったりすると思います。でも、桜の気温に対するの限度を実験で測ってみるのも楽しいと思います。

番号26.6 生徒H(R)の感想

よくわかりました!!!!

この例では、生徒どうしのかかわりの中で、表から発見したことを共有したり、疑問を解決したりしていこうとする姿が見て取れる。その結果、表を一

人で読んでいたのでは到達できないレベルにまで、生徒どうしの考えが高まっている。

生徒たちはスタディノートのデータベース機能を使うことで、何かを生み出す目的を持った生徒どうしのかかわりをもつことになる。そのかかわりの中で、新たな価値を創造しそれを共有していくことになる。言い換えれば、「互いに補う力をもつ複数の人々（生徒たち）が一人では到達できない『互いに理解される共有の場をもつ価値創造のプロセス』があるわけである。

## ■まとめ

### (1) 表計算ソフト「Excel」

Excelは多くのコンピュータにプリインストールされている。本実践のように数値計算に関わる内容を扱い、しかも数学を使う道具とした場合、Excelはその数学を有効に能率的に生かすことができる。特に、多くのデータを処理する場合やデータの特徴を視覚的にとらえたい場合、Excelは大変有効である。

今後、その他の利用も含めて、表計算ソフトを使った数学的探究活動についての実践例を増やしていく必要があると考える。

### (2) グループウェア「スタディノート」

Skemp (1987) によれば、数学学習でシエマを構成する活動には、①経験と実験、②コミュニケーション

とディスカッション、③創造性と内的整合性という三つの様式がある。そして、学習を効果的に支援するには、どれか一つだけで学ばせるのではなく、すべての様式を組み合わせる必要があるという。

イントラネット・インターネットを利用すれば、他のクラスや学年の生徒との対話、他校の生徒や外部の人たちとの対話が可能になる。そのため、②に関わる学習支援に役立つことが期待できる。

本稿で報告した授業実践は、それを意図したものである。このような授業を成功させるうえで、課題の設定や教師のサポートのあり方などが鍵になると考えられる。今後、これらの点について、さらに研究を深めていきたい。

※選択総合学習とは、本校における総合的な学習の一つである。本校では、総合的な学習の時間を次の三つの学習により構成している。  
・選択総合学習…総合的な学習の時間において各教科が担う時間。  
テーマは学年テーマにとらわれず各教科部会・教科担任が設定する「課題選択学習」とし、各教科の視点からせまる。  
・問題解決的な学習…横断的・総合的な学年テーマを扱う。  
・情報スキル学習…情報リテラシー（活用）能力を育成する。  
なお、選択教科は、問題練習や教科の基本的な補充など、平常の教科学習を補充・発展させる内容を扱っている。

この実践研究は、「第84回全国算数・数学研究大会」「中学校部会第9分科会（コンピュータ・教育機器）」「日本科学教育学会第4回研究会」で発表されたものです。



## つくば市立並木小学校 研究発表会に行ってきました

### 研究主題

「子どもが主体的に学び、  
あたたかくかかわり合う人間関係を育てる  
教育実践をめざして」

例年より冬の到来が早く感じられる11月のさなか、つくば市立並木小学校で今年も研究発表会がおこなわれました。

並木小学校の研究発表会の特徴は、ある特定のクラスの公開ではなく、全学年全クラスが授業を公開することです。どの学年も全クラスがいっしょになり、学年の先生方がTTを組むという形で、1、2年生が生活科、3、5年生が理科、4、6年生が総合的な学習の時間を公開しました。

6年生と3年生の授業の様子をレポートします。

### 興味や趣味からはじまる

6年生の授業では、『「夢」かなえよう～卒業大研究～』と題して、体育館での「発表&アドバイズゾーン」「ディスカッションゾーン」、メディアルームでの「調査・製作ゾーン」にそれぞれ分かれて、目的別に学習を深める活動がおこなわれました。メディアルームをのぞくと、始業のチャイムが鳴るや否や先生の挨拶もそこそこに、子どもたちがそれぞれ黙々と学習を始めます。インターネットやモバイル、図書などを活用して調べものをしている子、スタディノートで調べたことをまとめている子など、一人一人が自分の課題に沿って学習をしていました。

その中で、一人黙々とペットボトルや導線を使ってモーターを作っている児童がいました。電動ハブラシなどに使われている小型のモーターをきっかけに「小さなモーターを作って生活に生かしたい」という夢を持ち、仕組みや作り方を調べて、実際に作っているということでした。本当は小型のものを作りたいのだけど、まずは大きいのから、ということで500mlのペットボトルで、先生やボランティ

アの方のアドバイスを受けながらモーター作りに挑戦していました。「興味や趣味から、みんな調べたり作ったりしている。僕は興味から。」と自信満々に語る姿が印象的でした。

### 一つひとつの喜びが夢へ近づけていく

体育館の「発表&アドバイスゾーン」では、研究の中間発表がおこなわれていました。今まで調べてきたこと、わからないこと、これから研究をどう進めていくのか、をスタディノートにまとめて発表し、聞いている友だちや先生、ボランティアの人たちから、わからないことや教えて欲しいことについてアドバイスをもらうのです。

ある児童は、「安全な飛行機の構成を考えたい」という夢を持ち、良く飛ぶ飛行機の仕組みをテーマに中間発表をしていました。飛行機がよく飛ぶためにどうすればいいか、をこれまで考えてきた中で、「紙のキッドで紙飛行機を作ったのだが、よく飛ばないのでどうしたらいいのか」とみんなにアドバイスを求めています。キッドで作られた紙飛行機を飛ばすと、はらはらと頼りなく墜落してしまいます。その様子を見て、子どもたちからいろいろな意見が出されました。「もっと硬めの紙で作ったらどうか」「持つ位置を詳しく調べたらどうか」「カッターで紙を切るとき、まっすぐ切った方がいい」ボランティアの方からは「材料をもう一度考えてみては」「頭としっぽのバランスをもう考えたほうがいい」など、友だちとは別の視点からのアドバイスが出されました。「みんなの意見を聞いて、もう一回作ってみます」と次への目標を持って、その児童は発表を終えました。

モーターでものが動いたとき、紙飛行機がまっすぐ空へ飛んだとき、その子どもの喜びは膨らみ、また次への意欲を喚起させることでしょう。一つひとつの喜びがまた一歩夢へ近づけるのだということを、子どもたちは教えてくれました。

### 何を伝えるのか、何が必要なのか

3年生の「じしゃくでしらべよう」では、体育館でそれぞれのブースに分かれて、磁石でつくった作品の交流会がおこなわれました。スタディノートに写真や動画を入れて、動くしくみや動く様子を説明し、実際作った作品を見せて、一人ひとり発表していきます。

発表には、タッチでコンピュータを操作できたり、ペンで書き込みが可能なスマートボードが使われました。ここで大変印象的だったのは、スマートボードで発表するときに発表者が、「じしゃくはここです」「ひきつけられるところはここです」「こっちからこっちへ向

かって磁石がうごきます」などの説明をしながら、その場でペンで○や矢印などの記しをつけていた姿でした。説明をしながら○や矢印をつけるには、どこが大切なポイントなのか、自分はどこを強調して発表したいのかがわかっていなくてはなりません。画面の中に、始めから磁石を○で囲ったり、矢印で動く方向を示したりしておくことも一つの方法ですが、話ながらポイントを示していくほうが、相手により効果的に伝わります。気象予報士が天気予報を伝えるときに、話をしながら高気圧に○をつけたり、風の向きを書き入れたりする手法と同じことを、3年生の子どもたちはしていました。

また、ブースの外側には、これまで磁石について学習してきたことのプリントが掲示されていました。プリントをめぐって見てみると、磁石の作品を作るために“必要なもの”が書かれていて、子どもによって、丸磁石が2つ必要な子、丸磁石が5つ必要な子、とそれぞれ数も値段もちがっていました。全員決められた同じパーツや個数で作るのではなく、それぞれ必要なものを必要な分だけ購入して作る、こうしたやり方からも、研究主題である「主体的に学び」に取り組む先生方の姿が垣間見られるような気がしました。

### 先生版「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する」研究会

全体を通してとても興味深かったのは、先生がどこにいるのかわからないほど目立たなかったことです。胸に黄色い名札をつけた先生は、多くの参観者に混じって発表の様子を見ていました。そして、子どもがこまったとき、まよってしまったとき、子どもたちどうしては解決できないとき、そっと手を差し伸べました。先生は、あくまでも子どもの学びの支援者でした。

とかく研究授業というと、先生が普段着ないスーツを着て教壇の上に立ち、「どう発問したのか」「どう手立てをしたのか」「どう促したのか」だけに焦点が絞られて議論されることが少なくありません。もちろんそれらを議論し、今後に繋げていくことはとても大事なことです。並木小学校の授業をみていると、そういったことは授業をみていれば自ずとわかってくるものなのかもしれないと思われました。

今回の研究授業では、授業後の研究会という場が設定されず、疑問質問等は、授業中でも教師や児童に自由に聞いてくださいとなっていました。このことは、新しい学習指導要領で言われるところの「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断」することを、先生版に置き換えて、参観された先生方に投げかけていたのかもしれない。



ディズニーランドも近いよ！

2003年度

## メディアコーディネータ研修会のお知らせ

今年もメディアコーディネータ研修会のお知らせをする時期になりました。今年の会場は、幕張です。参加希望の先生方、今からカレンダーに丸印を！詳細は、追ってお知らせしていきます。

- 日程 2003年5月24日（土）、25日（日）
- 場所 シャープ幕張ビル（JR京葉線海浜幕張駅）  
千葉市美浜区中瀬1丁目9番地2号

### インタラクティブ・スタディ お試し教材のダウンロードはじめました。

インタラクティブ・スタディによる教材作成が、日に日に熱を帯びてきました。各地で公開授業や研修会も行なわれ始めています。そこで、教材作成を目指す先生方、またインタラクティブ・スタディを体験したい先生方のために、21世紀教育研究所で作成した教材を、まだわざわざダウンロードできるようにしました。スタディライター for WEBをお使いの先生方、ぜひ一度教材の中身をのぞいてみてください。教材作成のヒントが隠されているかもしれません。もちろん、研修会や日ごろの授業にも自由にご活用ください。またお使いになった感想などもお送り頂ければ幸いです。

### スタディノート実践事例ビデオ⑥ 富山県滑川市立西部小学校

#### 「自分・仲間を見つめて」～学校を支える一人として～ ーデジタルポートフォリオを活用した「道徳」の学習ー

「8番目に希望していた清掃委員になったときの気持ちです“がががーん”」

委員会活動がはじまる最初の時間、5年生の相川くんはスタディノートでこう表現しました。それから半年の間5年2組では、委員会活動のたびごとに活動の様子や感じたことをスタディノートで記録してきました。相川くんの気持ちは、やがて活動の楽しさ、責任感、そして問題意識、というふうに変化していきます。今回のビデオでは、このようにして記録してきた自分の気持ちや、活動に取り組む姿勢をみんなで振り返り、これからどう活動していけばよいのか、問題をどう解決していけばよいのか、スタディノートで意見交換をしながら話し合いを進めていく授業の様子がおさめられています。道徳という題材で、デジタルポートフォリオを取り入れた画期的な実践です。是非一度ご覧ください。ビデオの配布をご希望の方は、下記へお問い合わせ下さい。

シャープシステムプロダクト(株)文教統轄営業部

【E-mail】 study@ssp.osa.sharp.co.jp 【FAX】 06-6624-0764 【TEL】 06-6625-3233

### ーECONewsはホームページ、または郵送で！ー

ECONewsは、21世紀教育研究所のホームページをご覧になるか、または郵送で受け取ることができます。郵送会員には、年会費1000円で、年6回発行のECONewsとECONews教材CD-ROM、スタディシリーズ試用版CDなどを無償で配付いたします。くわしくは、下記までご連絡ください。ECONews教材CD-ROMは、希望者のみの配布となっています。申し込みをされる際は申込用紙に教材CD-ROM希望とお書きになるか、その旨を当研究所までお伝え下さい。

編集後記に「あけましておめでとうございます」と書こうとしてカレンダーを見ればもう2月。「鬼は外！」の音が聞こえる時期になっていました。No. 83の発行が遅くなり申し訳ありません。

2月といえば風邪の季節、今年も大流行、学級閉鎖もたくさん出ているようです。先生方も大変なことと思います。どうぞ、ご自愛下さい。

今年もECONewsをよろしく願いいたします。

Educational Research Institute for the 21st Century

## 21世紀教育研究所

- address 〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6
- TEL 029-850-3321
- FAX 029-850-3330
- e-mail econews@eri21.or.jp
- URL http://www.eri21.or.jp